

令和4年度 静岡県立看護専門学校 学校関係者評価結果報告書

1 評価概要

○ 対象期間

令和4年度（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

○ 評価方法

- ・ 9大項目、53小項目、4段階評価で職員アンケート調査を実施（実施時期：令和5年3月、評価者：本校職員24人）
- ・ 令和4年度の取組状況、上記職員アンケート結果等を元に、学校自己評価を学校運営会議で実施
- ・ 学校自己評価に対し、学校関係者評価委員による評価を実施（令和5年8月2日（水）15:30～）

2 評価結果

評価大項目	令和4年度の取組	職員アンケート			学校自己評価	学校関係者評価
		R3 評点	R4 評点	分析	評価・今後の取組（課題・改善策等）	
(1) 教育理念・目標	<p>・本校は、県民の医療の担い手として活躍できる質の高い看護師及び助産師を育成する責務のもと、主体的に学習する人のための環境整備、生命の尊厳と人間を尊重し、高い倫理観や豊かな感性を持って看護、助産を実践する人を育てることを教育理念に掲げ、そうした人づくりの上に、専門的知識、技術、態度及び幅広い見識を持つ心豊かな専門職業人を育成することを教育目的としている。</p> <p>・カリキュラム改正を受けて、看護1学科及び助産学科では、教育理念や改正の趣旨を踏まえ、学生に教育目標を周知し、体系的に実践した。具体例として、学生自身が求められる能力を常に意識できるよう、学生の名札の裏に教育目標を記載し、次年度に配布できるよう準備した。</p> <p>・看護2学科では、人口・疾病構造の変化や対象・療養の場の多様性、ICT化等を踏まえ、学生が主体的に学習し、看護実践の基礎的能力を身につけるためのカリキュラム改正を行った。</p>	2.8	2.9	<p>・評価平均は2.9点であり、概ね適切であった。</p> <p>・「学校の理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか」については、約5割が“やや不適切”または“不適切”と評価している。</p>	<p>・学校創立以来、掲げた教育理念の下、看護教育に取り組んだ。</p> <p>・看護1学科及び助産学科の学生には、新カリキュラムにより、教育目標や卒業生像を明確に示し、外部講師の協力の下、体系的な教育を実践することができた。</p> <p>・看護2学科においては、令和5年度からの新カリキュラムによる実践的な教育ができるように計画的に作業を進めることができた。</p> <p>・教育理念、教育目的に関する学生への周知については、教員が授業や学校行事等様々な機会を活用して、学生の理解が深まるよう取り組むことができた。一方、保護者への周知に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響で来校の機会に制限があり、十分な周知ができなかった。</p> <p>・今後は、学生等の理解状況を確認しながら、特に保護者に対しては周知方法や機会等を工夫し引続き取り組んでいく。</p>	<p>・(4)「学校の理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか」の項目で「不適切である」の評価が50パーセントあるのは、学校側は伝えているけれども、保護者が参加する行事等が実施できず、意見を聴き、反応を確認できる機会がなかったためであった。</p> <p>・学生の名札の裏に教育目標を記載する取組は、学生がそれを頻繁に見るとか、学生にある程度インパクトがないと、効果がわかりにくい。</p>

評価大項目	令和4年度の取組	職員アンケート			学校自己評価	学校関係者評価
		R3 評点	R4 評点	分析	評価・今後の取組（課題・改善策等）	
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念、教育目的に沿って、計画的な業務執行に努め、運営会議等での意思決定により適切な学校運営を行った。 ・特に、学校の教育目標の一つにICT化の推進を掲げ、県庁担当課と連携して令和5年度から導入予定の教育用ICT機器購入に係る予算を確保した。 ・職員によるICT化推進チームを設置し、規程等の整備や機器の選定などICT導入に向けた準備を進めた。 	2.6	2.7	<ul style="list-style-type: none"> ・評価平均は2.7点であり、概ね適切であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営については、教育理念、教育目的に基づき、計画的、効率的な運営を行い、概ね適切に対応することができた。 ・ICT化による業務の効率化については、令和5年度からのICTを活用した電子教科書など効果的な教育の実施に向けて準備をすることができた。 ・インフォクリッパー（学籍管理システム）やアンピック（安否情報システム）など既存のシステムも有効に活用できており、こうしたシステムは業務の効率化に寄与している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小項目(8)「運営組織や意識決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか」の項目で、職員の半数が不適切、やや不適切と感じていることについては、不適切、やや不適切と回答したその先生が、どんな思いを抱えているのかがわかるよう、面談で直接聞く方法や、アンケート方式などで、先生方が抱えている思いをくみ取る機会をつくってあげられるとよい。 ・評価は組織の風通しのよさと比例すると思うので、こまめに例えばミーティングをする中から組織や運営に反映させられるものが出てきて、評価は上がっていくのではないかと。上の人との面接では逆に言いにくさや人事評価につながる印象もあり、かえってミーティングのように自由な発言から、例えば、学科の教育としての考えなどが出てくる仕組みにしていくのがよい。 ・小項目(9)「人事、給与、教務、財務に関する規程等が整備されているか」、(11)「教育活動等に関する情報公開」は評価が上がっている。学校側も毎年努力をされているところもあると思うので評価されてよかった。(9)「人事、給与、教務」は、ICT化によって整備されたり使いやすくなったりしたのが反映されている。(7)「運営方針に沿って計画的に事業が行われているか」の項目が評価が下がっており、公立の柔軟性に欠けるというところに、教員が感じているところがあるのだと思う。 ・ICT化で教科書に代わってiPadで画面見ながらの授業というスタイルは、書き込みやメモをすることもなく、補足説明やプラスアルファの話が把握できるのか、若干心配がある。何らかの補足が必要と考える。
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・より質の高い看護師、助産師の育成を推進するとともに、教員の業務の効率化を図るため、ICTを活用した教育が実施できる環境の整備に向けて、令和5年度の予算確保など必要な準備を進めた。 ・新型コロナウイルス感染症感染拡大時には、感染対策を講じながら、教育課程に基づいた授業や臨地実習を必要に応じてオンラインによる授業や学内実習に変更して実施した。 ・教員の研修については、学校主催の研修（会計年度任用職員を含む。）や外部研修、教員が企画した研修を実施した。 	2.7	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ・評価平均は2.8点であり、概ね適切であった。 ・「学科等のカリキュラムは系統的に編成されているか」については8割が“やや適切”“適切”と評価しており、カリキュラムに関する評価は改善がみられた。 ・教員確保及び専門領域における先端的な知識、技術の習得するための研修や資質向上のための取組については、6割程度が“やや不適切”または“不適切”と評価している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動については、教育理念に沿って新カリキュラムを導入し、ICT化の準備を行うなど適切に対応できた。 ・令和5年度においては、新入生から電子教科書を使用し、また、臨床判断能力を向上させるための教育用電子カルテを導入するなど、リアリティある教育の実現を目指し取り組んでいる。 ・教員の確保については、年度途中で退職者が出たが、令和5年度は必要な体制を確保している。 ・職員の研修については、教員の希望を踏まえ必要な研修を受講できるよう配慮し、教員の資質の向上につながる対応ができた。 ・新型コロナウイルス感染症感染拡大時には、実習において、臨地での実習を学内実習とするなど、学びの質を低下させることがないように工夫し、適切に対応することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の研修には、予算を確保して参加させていただきたい。また学会にも参加していただきたい。新しい試みをされている教育機関が多いので、学会に参加すると大変勉強になるし、研修に参加する以上に、知り合った人との情報交換で、教員の質が上がる機会になるので、バックアップしていただけるとありがたい。 ・小項目(25)「専門領域等における先端的な知識、技術を習得するための研修、資質向上の取組」の項目は、昨年度と比べると、0.2ポイント下がっている。研修についてはしっかりと取り組んでほしい。また、(23)「人材育成目標の達成に向け、授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか」の自己評価では、年度途中で退職者が出たけれども、令和5年度に必要な体制を確保しているとのことであったが、逆に、そういうことができる要件を備えた教員がむしろ不十分であったといえる。 ・(15)「学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか」の項目は評価が相当上がった。カリキュラムが体系的に編成されていると教員が思った結果が得られている。(13)「教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針」の項目も高評価で、名札の裏面に教育目標を書いて、より周知させるということが含まれているかもしれない。これらの項目は評価が上がったが、「教員の研修の取組」、「人材育成目標の達成に向けて教員の確保」、そのあたりが足りない。 ・昨年度の評価で、(23)「人材育成目標の達成に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか」、(25)、(26)あたりの項目が不適切の回答が多いが、資料1の評価・今後の取組に、教員の確保については、年度中退職者が出たけれども、令和5年度に必要な体制を確保していることか、職員の研修について、希望を踏まえて受講できるよう配慮し、などとされているので、そのような成果が、今回の評価で表れて、これらの数値が改善していくとよい。

評価大項目	令和4年度の取組	職員アンケート			学校自己評価	学校関係者評価
		R3 評点	R4 評点	分析	評価・今後の取組（課題・改善策等）	
(4) 学習 成果	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師、助産師を目指す人材が社会に出て活躍するために必要な国家資格を取得するため、低学年から国家試験を意識した学力強化を行った。最高学年では、模試での成績不良者に対して不得意分野の対策を強化するなど、全員合格を目指して取り組んだ。 ・令和4年度国家試験では、看護師国家試験合格率98%（不合格1人）、助産師国家試験合格率100%であった。 ・看護学科卒業後、保健師養成校に進学した学生がおり、キャリア形成の基礎を築くことができた。 ・本校を卒業し、キャリアを積み活躍している卒業生に、外部講師として講義を依頼した。 ・助産学科では、学校説明会に卒業生が参加し、交流を通して卒業生の活躍状況を知る機会となった。 ・退学者については、令和4年度は10人おり、退学の理由は、進路変更5人、体調不良3人、成績不良2人であった。 ・在校生に対しては、人間関係や学習への悩み相談や適性指導の機会として、令和4年度も引続きカウンセラーによる相談体制を整えた。 	2.6	2.7	<ul style="list-style-type: none"> ・評価平均は2.7点であり、概ね適切であった。 ・「退学率の低減が図られているか」、「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」、「卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか」については、6割程度が“やや不適切”または“不適切”と評価している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国家資格の取得については、個々の学生に応じた学習対策を行った。国家試験の合格率は、看護師は98%、助産師は100%であり、学校全体では合格率100%を達成することはできなかった。 ・卒業生は、希望どおりの就職、進学ができており、学校の役割である地域で活躍する人材養成という点において、成果を出すことができた。 ・退学者については、前年度に比べ増加したが、退学者の半数は他の道を目指すという理由であった。 ・退学者を減らす取組として、令和5年度は、入学前に、学校生活がよりイメージできるよう、学校案内やオープンキャンパスの内容を工夫し、ミスマッチがないよう取り組んでいく。 ・卒業生の社会的活躍の把握や卒業後のキャリア形成効果の把握については、実習病院との連絡調整会議や実習の機会を通じて、就職した卒業生の把握に努めたほか、本校の講師を依頼した、認定看護師や地域在宅看護等で活躍している卒業生との交流が、在校生にとって、目指すべき看護師像をイメージする機会となるなど、教育活動に活用することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセラーの相談体制を利用する学生が増えたようだが、女性のカウンセラーを1人増やした成果が出たのではないかと。女子学生が多いので、女性のカウンセラーの方が話をしやすいということもある。 ・カウンセリングの項目は、中身にもよるが、学習、進路の相談などではないので、「学習成果」のところより「学生支援」のところの方が妥当。 ・国家試験の合格率は、100パーセントは達成できなかったが、実数では1人不合格、昨年は全員合格で、入学してくる学生の指導の苦労はあるにせよ、結局、卒業する時には、国家試験の合格率が毎年100パーセント近くできているから、3年間かけて先生方が引き上げてくださっている成果は出ている。 ・退学者を減らす取組として、令和5年度は学校案内やオープンキャンパスの内容を工夫し、学校案内は、昨年度のものに比べて、学生の直接の声や、顔、写真等を前面に出し、また1日の生活を、よりイメージしやすくなるような工夫をしたもので、よくできており、手に取ってみたいくなるような冊子になっている。 ・(30)「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」の項目は、前年より評価が下がっていて、こういう項目はプラスになっていくものだが、今年の評価は昨年より下回った。卒業生や在校生、特に卒業生について、帰属意識が薄いというか、先輩たちが大勢活躍しているのに、全く知らない。もう少し、きずなが強くなっていい。卒業生・在校生の社会的な活躍は把握しているが、現実には学生と先輩が繋がっていない。同窓会をもう少し活発にするなど、方法があると思う。
(5) 学生 支援	<ul style="list-style-type: none"> ・在校生に対する就職説明会を28病院の参加を得てオンラインやDVDにより開催したほか、随時、学生に就職に関する情報提供を行った。 ・学生の経済的負担を軽減する高等教育修学支援新制度や専門実践教育訓練給付金制度の対象校となっており、希望する学生が支援を受けられる体制を維持した。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により経済的に困窮する学生の学びを継続支援するため、55人の学生に対し各5万円を給付した。 ・学生確保については、高校からの要請による進路説明会や、高校生及び保護者が参加する合同説明会に参加するなど、高校生に看護師という職業及び本校を知ってもらう機会を提供した。 	2.6	2.7	<ul style="list-style-type: none"> ・評価平均は2.7点であり、概ね適切であった。 ・「保護者と適切に連携しているか」については、6割強が“適切”または“やや適切”と評価している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・在校生の就職支援として、主に東部地域の病院の参加を得て、学生が就職先を考える相談会を実施し、多くの学生を就職に導く機会とすることができた。令和5年度は対面式の相談会を計画している。 ・学生への経済的支援として、従来の給付制度に加え、県独自に給付金を支給するなど概ね適切に支援することができた。 ・学生支援として、成績不良者や生活態度に問題がある学生については、保護者と適宜に連絡をとり連携した対応ができた。 ・教員が高校での進路説明会等で、学生や保護者等に本校に関する情報を提供するとともに、学生等から看護学校に対する関心事やニーズなどの情報を収集することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(36) 課外活動の項目も評価が低い。時間がないことは確かにあると思うが、自分が教える大学では、例えば、地域防災の日のようなところに参加してみるなど、ボランティアのような活動をしている学生が結構いる。そういうことは学生からは動けないかもしれないので、教員が仕掛けてそういう活動をするのもいいと思うし、そういう活動をしたことを新聞等でPRすると宣伝にもなる。県立看護はそんな活動をしているのだと認識してもらえるので、マイナスには決してならない。そういうボランティアや地域貢献のような活動も少し意識して、新聞に載るような他の学校の活動を参考にして、取り組んでみるとよい。 ・クラブのようなものは、現在の活動はなくても、母体があれば活動できるのではないかと。また、課外活動として、助産学科の伊豆の国市での健康教育の新聞記事があるが、このように広報されることは、効果がある。やる気につながるし、モチベーションになる。 ・少し評点が下がっているのが、学生の経済的な支援体制で、高等教育就学支援制度や専門実践教育訓練給付金制度など助成制度もあるようだが、経済的な支援体制は、若干足りないのではないかと評価。令和3年度より評価が下がっている。各病院の奨学金制度もあるが、利用されているといっても、評価を見ると、経済的支援体制は整備されているとは感じていない、まだ不足しているという意味だと思う。先生は学生と普段接しているから、何か思うところがあるのではないかと。これも大事な問題だ。

評価大項目	令和4年度の取組	職員アンケート		学校自己評価	学校関係者評価	
		R3 評点	R4 評点	分析		評価・今後の取組（課題・改善策等）
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症が終息しない中、日常の健康管理のほか、県をまたぐ移動の制限や原則アルバイト禁止といった行動制限など、学校として定めた対策を徹底し、全職員、全学生が感染拡大防止に取り組んだ。 1クラス内で10人程度の感染が発生した際には、学生及び職員の健康状況を確認し、学年全体を登校禁止、オンラインでの授業又は自宅学習とし、感染拡大を防止した。 校内の施設、設備については、雨漏りの発生を抑えるための校舎外壁等のシーリング修繕工事や、安定したインターネット接続のためのLAN配線工事などを行った。 災害発生時に備え、4月と9月の2回、防災訓練を実施し、避難経路の確認や防災意識啓発用DVDの視聴を行った。 	2.8	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 評価平均は3.0点であり、概ね適切であった。 各評価項目で、8割から9割近くが“適切”または“やや適切”と評価している。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策として具体的に定めた事項に対して取り組んだ。感染者が発生した時には、学生・職員の体調の把握、登校の制限など、感染拡大防止に向けて適切に対応することができた。 校内の施設、設備については、耐用年数の到来や故障等のタイミングで順次更新や適時の補修を実施しており、外壁塗装工事を行うなど安全な教育環境の確保に対応することができた。 防災訓練については、令和4年度は感染対策のため避難経路の確認にとどめていたが、令和5年度は、防災設備の確認やクイズ形式で防災意識の啓発を行い、学生の防災意識を高めるよう取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> この項目については、特に御意見がない。総合点はアップしており、合格点と言っていい。皆さん評価されていて、よかった。
(7) 学生の受け入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> 学生募集活動に力を入れ、ホームページや、県公式LINE、Twitter等の各種広報媒体を活用した広報を実施した。 募集に当たっては、より多くの生徒に志願してもらえよう、県内全ての高校に募集要項や学校案内などを送付した。 応募の少ない看護2学科の志願者増加に向けた取組として、准看護師が就業している病院等に募集要項を送付するとともに、浜松市医師会が運営する県内唯一の准看護師養成学校へのPRや、県看護協会主催の進学を希望する准看護師を対象とした研修の場での学校紹介など、機会を捉えて効果的な募集活動を行った。 学校説明会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンラインで開催し、学校のPRの機会を確保した。 	3.1	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 評価平均は3.0点であり、概ね適切であった。 学生募集活動については、約8割が“適切”または“やや適切”と評価している。 	<ul style="list-style-type: none"> 志願者の増加に向けた学生募集活動として、各種広報媒体を活用した効果的な広報を実施することができた。また、学校説明会や、高校生を対象とした進路相談会等、機会を捉えて積極的にPRを行うなど、適切に対応することができた。 令和5年度は、学生募集活動を更に強化しており、取組のひとつとして、学校案内の内容や構成を見直し、より親しみやすく多くの高校生等に手にしてもらえよう、学生の写真や記事を多用した冊子を作成した。引き続き学校の特徴をより広くPRし、効果的な広報の展開を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 看護2学科の存続について、費用対効果を考えると、逆に、通信制のところにお金を出す方が効果的ではないか。教育効果という意味では、5人以下になるとグループワークもできず、1対1になってしまうのも適当ではない。 2学科の件については、私も、10年ぐらい前の評価検討委員会で、2学科はだんだん減っていくが残した方がいいと主張した覚えがある。ところが准看護師試験の受験者が多い。准看護師は全国的に減ってきているから応募者は少ないかと思ったら、若い人は増えていて、確かに現場でも、看護師試験に落ちて、准看護師資格は幸い取っていたから准看で1年間受験勉強しながら働いている学生に会ったことがある。准看護師は減っていると思うが方向性としては残しておくべき。以前は現場でも、不採算だが貴重なコースだった。マンツーマンに近いなど、考えるところはあるが、どこかに門戸を開いておく必要がある。大所高所から決めていくしかないと思う。 学生受け入れ募集に関しては、この学校案内は、1学科については効果があると思う。2学科については、県内には浜松しかなく、県外からも来ていて、学生が集まる範囲が広いので、もう少し広げてみることも必要。 志願者の増加に向けた学生募集、広報媒体を活用して効果的な広報をすることができたとの自己評価で、実際検索すると学校説明会の記事がヒットするので、スマホを使って検索する高校生に、各種広報媒体を活用して、効果的な広報ができている。 今年度から実施する指定校推薦の、看護1学科の公募推薦の募集要項に「高校卒業見込み（通信制を除く。）」とあるが、一般入試の要項には書かれていないので、公募推薦だけ通信制の課程を除くのはなぜなのか。この地域の他の大学や専門学校の公募推薦でも通信制を除いていない。今、通信制の高校が増えており、これまでなかったような場所にも教室がどんどん開設され、通信制の高校を卒業する学生も増えているので、そういうところにも門戸を開いていくとよい。公募型の推薦を受ける機会は、通信制であろうが全日制であろうが、卒業すれば高卒には変わらないので、区別してしまうのはよくないと思う。

評価大項目	令和4年度の取組	職員アンケート			学校自己評価	学校関係者評価
		R3 評点	R4 評点	分析	評価・今後の取組（課題・改善策等）	
(8) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令等の遵守については、特に個人情報情報の取扱いに慎重を期し、漏洩や不正使用のないよう、郵便の宛名と内容のチェックやメール送信のアドレスの確認など、細心の注意を払った。 ・適切な学校運営に向けて学校関係者評価を実施しており、外部からの意見を取り入れるため、学校関係者評価委員会を開催しており、令和4年度も学校運営の改善に向けた意見をいただいた。 ・職員のコンプライアンスの意識づくりや、風通しのよい職場づくりのため、職員が意見交換するグループワークを実施した。 	3.0	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ・評価平均は3.1点であり、概ね適切であった。 ・各評価項目で、7割から9割が“適切”または“やや適切”と評価している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校では多くの個人情報を取り扱うが、漏洩や不正使用はなく、適切に管理することができた。 ・学校運営の取組について自己評価を行い、学校関係者評価委員会において委員から多くの意見をいただいた。これらの意見を踏まえ、改善に向けて取り組むなど、適切に対応することができた。 ・引き続き、学校運営に関する諸課題の解決に向け、適切な学校運営に取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(49)「自己評価の実施と問題点の改善を行っているか」の項目の評価が少し下がっているが、このアンケートを取った後、この評価委員会に出る前に、職員同士で話し合いなどしているのか。基本的には自己評価であって、先生たち自身がどのように感じているか、その捉え方が違うかもしれないので、まずは、この委員会の前に、先生方の話し合いというか、結果を報告して意見を交わすような時間をとるとよい。受け止め方が違っていることから生じる齟齬がなくなる。 ・自己評価は実際やっているのですが、評価が下がっているのは、後半部の問題点の改善という部分が見えにくいからではないか。他の項目は評価が上がっており、問題点の改善を行っているか、というところが評価が低い。
(9) 社会貢献、地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・助産学科の学生が地域に出向き、地域住民に対して健康教育を実施した。 ・教員が、県消防学校の学生に対し、病院前救護における産婦人科救急についてオンラインで講義を行った。 ・県看護協会への協力として、新人看護職員指導者講習会、准看護師進学支援研修、東部地区支部事業等に教員を講師として派遣した。 	2.0	2.4	<ul style="list-style-type: none"> ・評価平均は2.4点であり、“やや不適切”から“不適切”の評価が多い。 ・特に、学生のボランティア活動の奨励・支援、地域に対する公開講座等の積極実施については、6割～7割が“やや不適切”または“不適切”となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師、助産師を養成する専門学校の特徴を活かし、地域においてできる各種の取組を、関係機関と協働して進めることができた。 ・取組の波及効果の1つとして、令和5年度は、新たに職員研修の講義依頼を受けている。 ・学校祭は、コロナ禍の影響で中止していたが、令和5年度は開催を予定しており、学校の資源や施設を活用した地域貢献を行っていきたい。 ・学生のボランティア活動の推奨・支援については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大がありできなかった。今後は、感染状況を見ながら検討していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と比べると、評価が上がっている。この9項目のうちで、ここが一番ポイントが上がったところ。外に出向いて、メディアで紹介されるなどのことが、大勢の目に触れて、プラス効果になっている。